

◆『国際学術研究会「交響する古代」予稿集』

国際学術研究会「交響する古代」

世界に開かれた大学へ 〈複眼的日本古代学研究の人材育成プログラム〉

代表者 吉村 武彦

目次

Session1 「ひと・こと・ものの移動」

古代東北と黄金

移動する神と人—『風土記』を中心に—

弥生時代の海上交易

所謂“天凤三年鄣郡都尉”砖铭文与秦“故鄣郡”的名称以及莽汉之际的年号问题

いわゆる「天鳳三年 鄣郡都尉」磚銘文と秦代「故鄣郡」の名称及び王莽期の年号問題

现实与理想之间

現実と理想の間

聖武天皇による恭仁京造営と洛陽城

永藤 靖 3

堂野前 彰子 9

石川 日出志 15

辛 徳 勇 21

斉 東方 29

小笠原 好彦 41

Session2 「古代学研究の新たな展開」

古代国家の空間認識と支配—「野行幸」にみる天皇の移動について—

日本古代における官人の序列—古記録を素材として—

三輪山と夢—崇神紀の皇位継承をめぐる—

大伴家持の「すめかみ」—大伴池主の表現との比較から

『源氏物語』の注釈書における礼楽思想—熊沢蕃山『源氏外伝』をめぐる—

『浜松中納言物語』の想像力—「唐土」創出のための知の源泉を探る—

鈴木 裕之 49

石坂 佳美 55

遠藤 集子 61

田中 美幸 67

李 興 淑 73

金澤 典子 79

Session3 「東アジアにおける国家の形成と文字」

東アジアにおける国家の形成と文字—日本における古墳時代の歴史的意味

三国古墳時代における韓日交渉の変遷と歴史的な背景

文字与文明

文字と文明

文字の受容と日本語

出土文字史料與古代史研究—以中日韓三國的古代木簡為例—

出土文字史料と古代史研究—中日韓三国の古代木簡を例として

列島の文明化と国家のしくみ

大塚 初重 89

朴 天秀 99

王 巍 105

神野志 隆光 109

徐 建新 115

吉村 武彦 125

Session4 「都市空間と物語」

『源氏物語』皇統の行方—第三部における二人の〈若宮〉の誕生—

源氏物語と年中行事

高橋 麻織 133

日向 一雅 139



世界文学としての『源氏物語』—あるロマンの歴史—	Michael Emmerich(マイケル・エメリック)	145
国風文化新探：「類聚の世紀」	井上 亘	153
古記録と日記文学	加藤 友康	159
Another Heian: The City in Fujiwara Akihira's Shinsarugakuki		
もうひとつの平安京：藤原明衡の『新猿楽記』における「都市」	Joan R. Piggott(ジョアンR. ピジョー)	169
平安期における国衙—結節点としての地方「都市」—	渡辺 滋	171
中世京都の中の平安京—生き続ける古代都市像		
	Matthew Stavros(マシュー・スタブロス)	177
新羅王城慶州に関わる朝鮮(李朝)知識人の詩文に現れた歴史観念と心像地理	沈 慶 昊	181